

# ハマフエフキの種苗生産

安井理奈<sup>\*1</sup>・甲斐哲也<sup>\*2</sup>

## 1. 目的

放流用、養殖用ハマフエフキ種苗の生産

## 2. 材料と方法および結果

種苗生産には、屋内円形50 t と100 t 水槽(通称 C 及びS水槽)を用いた。

飼育水には、卵収容前に次亜塩素酸ナトリウム 50 t あたり 1.5L で殺菌後、所定量のチオ硫酸ナトリウムで中和した。注水には紫外線殺菌ろ過海水を用いた。

水面の油膜やゴミ取りを目的に園芸用灌水スプレーを数箇所設置した。

ワムシは、7回次を除いて、タイ産ワムシのみ給餌、7回次は日令13以降、タイ産ワムシ不足のため S 型ワムシも給餌した。栄養強化にはスーパー生クロレラ V12(クロレラ工業製)を用いた。ワムシ給餌期間中は、飼育水にナンノクロロプシスを添加した(50 t水槽に1リットル/日程度)。浮上横転防止策として日令 30 日を超えた頃から例年行っていた濃いめのナンノクロロプシス添加は行わなかった。

アルテミアは、中国産アルテミア耐久卵を溶殻処理しスーパー・カプセル・パウダー(クロレラ工業製)で栄養強化して給餌したほか、中国産冷凍コペポーダも与えた。

配合飼料は例年用いているラブラーバ、おとひめの他にタウリン強化されたアンプローズを使用した。

ハマフエフキの種苗生産は、2010年3月10日から7回次、9水槽で行った。各回次の収容卵数、生残率等を表1に示す。

各回次とも、日令3~7で大量斃死が発生し、日令10での生残率が孵化仔魚数の数%となった。

ライト2個による夜間照明も試みたが、斃死の軽減にはつながらなかった。

その後は日令30ごろから共食いと思われる斃死魚が発生した。

浮上横転魚は、十数匹程度見られることもあったが、1日程度で収まることが多く、アルテミアの過食によるものではないかと思われた。

最終的に31万1千尾の種苗を生産した。

表1 ハマフエフキ種苗生産の状況

生産回次	1	2	3	4	5	6	7
水槽番号	C-6	C-5	C-1	S-3,4	S-1,C-3	S-2	C-5
卵収容日	3/10	3/18	3/25	4/6	4/14	4/23	5/11
卵収容数(千粒)	5580	7284	3172	6026	8100	10972	6290
ふ化率	96%	53%	85%	91%	69%	73%	95%
水槽容積 m <sup>3</sup>	100	100	50	50*2面	100 50 各1面	100	100
仔魚収容数(千尾)	5357	3861	2696	5454	5581	8010	5976
飼育日数	57	49	48		55-60	52	39
取揚全長範囲 mm	23.3-47.3	14.0-36.0			26.9-50.8	24.13-48.5	
取揚平均全長 mm	36.4	23.6	21		43.3	35.4	
取揚尾数 千尾	50	69	17	生残率悪く	103	72	配布要望数を
生残率(ふ化)	0.93%	1.79%	0.63%	日令19で廃棄	1.85%	0.90%	満たしたため
飼育水温	22.5-26.4	23.0-26.2	23.0-26.2		23.0-26.2	22.6-26.2	途中廃棄

\*1 現在の勤務先:海洋深層水研究所

\*2 現在の勤務先:漁港漁場課